

○参議院での決着、道路特定財源

道路特定財源は、道路以外にはこの財源を使わせないと、法律で使い道を限定しています。予算委員会の審議が進むほどに、こうした仕組みが、いかに税金の無駄遣いにつながっていくかが、明らかになってきたと思います。1 キロあたり 120 億円の高速道路、合計 1553 人に及ぶ 53 の天下り法人への権益化されすぎた任意契約の実態、赤字をたれ流す駐車場、コストに対して誇張化された便益に基づく道路建設や、ユニフォーム、テニスコート、按摩器など、きりがありません。毎年 5.6 兆円もの財源が自動的に道路のために入ってくるから、これに群がる権益ができてしまう。もう 30 年もの間続いた制度を、依然としてこれから 10 年先も保証しようという制度は、やっぱり見直すべきだと、予算委員会の議論が進むほどに実感しました。

政府与党は、29 日、衆議院の強行採決で法案を通過させました。ここまで来る中で、私は、与党理事に対して、法案の修正に向けた話し合いなど、心を尽くして現実的な対応で話し合いの場を財務金融委員会の現場でつくろうと提案してきました。結果は 0 回答。与党は、いまだに参議院が与野党逆転をしている状況を理解していないようです。

○危うさ目立つ官僚組織

中国の餃子問題、在日アメリカ軍の少女暴行、自衛隊の「あたご」による漁船衝突など、次から次へと問題が起きます。加えて、国土交通省の道路中期計画のずさんさや、消えた年金問題での社会保険庁や厚労省の対応などがあり、組織に対する危機管理で関係省庁の対応を検証すると、日本の官僚組織の危うさが際立っています。国会の議論やマスコミの批判にさらされると、情報が錯綜し、責任逃れが横行して、内部組織が対立をはじめて、大混乱している様子が分かります。拳句の果てには、防衛省の組織改革

を進めようとする石破大臣に危機感を持った抵抗勢力が、事故の処理を混乱させて大臣の追い落としを図っている。内部告発をおそれる国土交通省の道路局がパニック状態で、收拾不可能、などなど、いろいろな動きが透けて見えます。

ここで大切なのは、政治のリーダーシップです。政治に前向きな議論が始まれば、官僚組織は再起動します。夏の洞爺湖サミットなどで、環境問題に議長国の日本が世界の将来基準を提起することや、年金、医療の改革の道筋、地方分権への本格的な移行など抵抗勢力を一枚一枚はがしていくことだと思えます。

○日本銀行総裁は世界の人材を

衆議院での強行採決の影響で、参議院がしばらくストップしましたが、今日から動き出します。日本銀行の総裁人事では、19 日の期限までに折り合いをつけて、与野党合意にこぎつけ、市場に混乱が起きないように努力しようと言っています。候補に挙がった武藤さんは、財務省では、国債発行を無秩序に認め、今の財政破綻を起こした責任をとらなければならない立場です。それが今度は日本銀行に移って、国債を買い込んで持ち続けることになる。結果は、国債の金利が低くなることから財務省は助かる。しかし、このことが財務省の財政規律を緩める結果に働き、更なる借金を誘発するとすれば、日本にとっては問題だということです。日銀の独立性が大切だといわれる理由がこんなところにもあります。

○政権交代の実現した韓国

国会日程に足止めされて、韓国の李明博大統領の就任式には参加できませんでした。北朝鮮問題では、私のパートナーであるハンナラ党の黄祐呂議員から、「今度は私のハンナラが与党になったので、北朝鮮に対しては、中川とさらに強い絆を組むことができるから頑張ろう。」とメッセージが届いていました。